

飛騨市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の結果

- 1 点検及び評価を行った期日 令和4年8月9日(火)、令和4年8月24日(水)
- 2 点検及び評価の会議を行った場所 飛騨市図書館2階 情報発信室
- 3 点検及び評価を行った会議 令和4年 第7回教育委員会
- 4 点検評価委員(7名) 社会教育委員の会委員長、河合小学校学校運営協議会委員、宮川小学校学校運営協議会委員
飛騨市PTA連合会会長(神岡中)、同母親代表(神岡中)、飛騨市文化協会長、飛騨市スポーツ協会長

- 5 点検及び評価を行った会議に出席した者
(飛騨市教育委員会)

教育長 沖畑 康子、 委員 向川原 眞郷、 委員 平澤 千人、 委員 牛丸 洋子

(説明のため出席した飛騨市教育委員会事務局職員)

教育委員会事務局長 野村 賢一、教育総務課長 堀之上 亮一、学校教育課長 上口 淳
生涯学習課長 古田 善尚、スポーツ振興課長 大始良 透、文化振興課長 大上 雅人
教育総務課長補佐 仲島 孝子

- 6 点検及び評価の対象事務 飛騨市教育委員会の権限に属する令和3年度の事務

- 7 点検及び評価の方法

飛騨市教育委員会事務点検評価実施要領(平成21年飛騨市教育委員会訓令第1号)第3条の規定により、飛騨市教育委員会事務局各課が第1次評価した「飛騨市教育委員会事務点検評価資料」により、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第26条第2項の規定に基づく飛騨市教育委員会事務点検評価委員会を開催し、教育に関し学識経験を有する者からの意見聴取を行った後、令和4年8月31日開催の令和4年第7回教育委員会において、令和3年度の飛騨市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価を行った。

8 飛騨市教育委員会が飛騨市教育委員会事務点検評価委員会に意見聴取を行った期日及び場所

第1回 期日 令和4年8月 9日 (火)

場所 飛騨市図書館2階 情報発信室

第2回 期日 令和4年8月24日 (水)

場所 飛騨市図書館2階 情報発信室

9 飛騨市教育委員会事務点検評価委員会の飛騨市教育委員会に対する意見

飛騨市教育委員会の権限の属する令和3年度事務の点検及び評価については、飛騨市教育委員会事務局各課が行った第1次評価のとおりであることを認める。

10 点検及び評価の結果

別紙「令和4年飛騨市教育委員会事務点検評価結果」のとおり

令和4年 飛騨市教育委員会事務点検評価結果

令和3年度 事務事業点検評価シート

令和3年度 決算に係る主要施策の成果に関する
説明書主要施策成果説明書（教育委員会関係分）

飛騨市教育委員会

令和3年度 事務事業点検評価シート

【事務点検評価実施要領第2条】

担当課	事業番号	事務事業名	頁	評価
教育総務課	①教育総務係	1 教育委員会運営事業	1	A
		2 スクールバス運営・更新事業	2	A
		3 飛騨市育英基金貸付事業	2	A
		4 育英基金貸付地元就職補助事業	2	A
		5 小中学校施設整備事業「神岡小学校大規模改修事業（第1期）」	3	A
	②学校給食係	6	安全・安心な学校給食の提供	4
地産品を使ったふるさと食育の推進			4	
給食施設の設備更新			4	
給食費特別会計			5	
学校教育課	①学務係・管理指導係	7 飛騨市学園構想の推進	6	A
		8 ICTを効果的に活用した授業づくり	7	A
		9 生きにくさ、学びにくさのある児童生徒への支援の強化	8	A
		10 学校外での学習環境・体験活動の充実と指導力の向上	9	A
生涯学習課	①生涯学習係・教育振興係	11 社会教育推進事業	11	B
		12 青少年育成推進事業	12	A
		13 家庭教育学級等開催事業	13	A
		14 地域学校協働活動事業	13	A
		15 公民館講座等開催事業	14	A
		16 公民館管理運営事業	15	A
文化振興課	①文化係	17 図書館機能の充実事業	17	B
		18 飛騨市美術館企画展及び関連セミナー・ワークショップ事業	19	A
		19 地域歴史資源活用事業	20	A
		20 文化芸術振興事業	21	A
		21 文化交流センター管理・運営事業	23	A
		22 街なかポケットミュージアム開設・展示事業	23	A
スポーツ振興課	①スポーツ振興係・教育振興係	23 スポーツ推進事業	24	A
		24 体育施設管理運営事業	26	A
		25 飛騨市屋内運動場整備事業	27	B
		26 ねんりんピック岐阜2021大会開催事業	28	A
		27 公共施設予約管理システム導入事業	28	A
		28 スキー振興事業	29	A

(注) 各欄下段カッコ内は「うち実質一般財源所要額」を示す。 ※以下同様

第11 教育委員会事務局

1 教育総務課

① 教育総務係

総括事項

飛騨市の教育行政を進めるため、定期的に教育委員会を開催し、教育行政における重要事項や基本方針の決定を行った。さらに、教育委員や市内小中学校と連携を図りながら、新型コロナウイルス感染症対策によるスクールバスの増便、災害による臨時の路線や時間の変更等、運用及び施設・設備の両面にわたり教育環境の充実に取り組んだ。また、学校施設については、外壁改修を中心とした神岡小学校の大規模改修工事（令和3年度・令和4年度の2か年計画）のうち、第1期工事を完了したほか、各学校施設の破損個所や危険個所の修繕を行い施設の保全に努めた。

- | | | | |
|---|-------------------|----|--------|
| 1 | 教育委員会運営事業 | …… | 事業番号 1 |
| 2 | スクールバス運営・更新事業 | …… | 事業番号 2 |
| 3 | 飛騨市育英基金貸付事業 | …… | 事業番号 3 |
| 4 | 育英基金貸付生地元就職補助事業 | …… | 事業番号 4 |
| 5 | 神岡小学校大規模改修事業（第1期） | …… | 事業番号 5 |

施策の概要

1 教育委員会運営事業（決算額 1,263千円） 決算書 P222～224 事業番号 1

教育委員会では教育行政の質の向上を目的に、学校経営をはじめとする様々な教育に関する案件について議論を重ねた。また、事務点検評価委員会では、教育委員会の事務事業の内容について点検・評価をすることで、その結果を令和4年度への施策に繋げる取り組みとなった。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
教育委員会運営事業	千円 1,317 (1,317)	千円 1,263 (1,263)	千円 54 (54)	教育委員会の開催 定例会9回（議案28件、承認25件、報告5件 合計58件） 臨時会1回（議案1件） 教育委員会協議会の開催 9回 事務点検評価委員会の開催 2回（8月 審議及び意見聴取、ホームページ掲載）

（評価と課題及びその対応策）【令和4年度予算計上額：1,315千円】

教育委員会定例会は年9回、臨時会1回が開催され、教育行政について、各委員による活発な議論が行われた。新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う

対策により事業の延期や規模の縮小、行事催行内容の見直しなど、活動機会が減少したが、10月～11月には市内8校について小中学校の授業を視察する等、教育の現場に出向き、各校との連携を図った。

令和4年度は新時代の教育環境整備や新たな課題に対する協議や審議を深めるため、市町村教育委員会オンライン協議会や新任教育委員研修会等に積極的に参加して情報の共有を行い、引き続き資質の向上に努める。

2 スクールバス運営事業（決算額 79,783千円） 決算書 P224 事業番号 2

スクールバス運営事業は、令和3年度に引き続き新型コロナウイルス感染症対策により、乗車人数が多い路線（古川大江線・信包線、神岡袖川線）については3密を防ぐため複数台数での運行となった。また、通常の小中学生の登下校、学校行事、部活動の運行のみならず、コロナ対策または天候による通行規制等の早期下校についても対応した。このほか、学校外活動や市民団体等が社会教育活動で利用するフリーバスについても継続して運営した。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
スクールバス運営事業	千円 86,410 (86,410)	千円 79,783 (79,783)	千円 6,627 (6,627)	スクールバス運行委託 77,766千円

（評価課題及びその対応策）【令和4年度予算計上額:86,395千円】

現在18台あるスクールバス車両（ワゴン車含む）については、令和4年度に車両更新計画を見直したうえで更新を行うこととしている。なお、計画の更新にあたっては、民間並の更新基準を採用する。また、バスの運行に際し、新型コロナウイルス感染症予防対策として、「密閉・密集・密接」を避ける観点から、引き続き車内の換気やバス増便を行い、車内での感染予防エチケットを教育するなど感染予防の実施とその意識を高める取り組みを継続していく。

3 飛騨市育英基金貸付事業 事業番号 3

令和4年3月末時点での貸付総額は229,115千円（232件）となった。前年度に引続き償還金が貸付金を上回っているが、償還免除が4件あったため、年度末の貸付金残高は減少した。

貸付対象者拡充のため、平成31年度から対象学校の拡充（大中学校等の追加）及び申請時の成績要件を緩和するチャレンジ枠を新設した。

飛騨市育英基金総額 447,260千円（貸付額229,115千円・現金218,145千円）

令和3年度貸付額 27,720千円（47件 うち新規12件）

令和3年度償還額 38,338千円（172件）※償還免除決定4件

4 育英基金貸付生地元就職補助事業（決算額 3,232千円） 決算書 P225 事業番号 4

市内事業所等の雇用の確保と定住促進を図るため、従前の要綱に基づいて、平成26年度までに育英基金を貸し付けた者のうち、現在償還中の飛騨市在住者に、「地元就職補助金」として、償還金の一部補助を実施した。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
育英基金貸付生 地元就職補助金	3,533 ^{千円} (0)	3,232 ^{千円} (0)	301 ^{千円} (0)	補助対象者 24名 (内、完済者6名)

(評価と課題及びその対応策) 【令和4年度予算計上額:3,670千円】

当制度は、地元就職による雇用の確保と若者の定住促進を目的として平成18年度に創設されたが、その方向性に鑑み平成27年度からは「就職奨励金交付事業」として新たに制度化されたため、育英基金からは分離された。ただし、平成26年度までの貸付生は当該制度の対象者であるため、当該貸付生の償還が終了するまで予算の確保が必要である。

5 神岡小学校大規模改修事業 (決算額 140,168千円) 決算書 P227 事業番号 5

S61建築の神岡小学校は、耐震化の必要のない建物であったため、これまで大規模な改修を行ってこなかった。しかし、老朽化により外壁に劣化がみられること、また塗装にアスベストが含まれていることから、安全対策のため、外壁改修を工区割りして2か年計画で改修を行うこととした。令和3年は、校舎西側を第1工区として改修工事を実施した。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
神岡小学校大規模改修工事 (第1期)	140,200 (6,441)	140,168 (9,916)	32 (△3,475)	外壁改修工事1式 (アスベスト除去含む)

(評価と課題及びその対応策)

工事を夏期休業期間中とすることにより、授業に支障なく工事を実施できた。また、放課後児童クラブの利用者に対しても、最大限の安全配慮を行った。さらに、あまり活用の無かった中庭を、この際駐車場に変更したことにより、駐車可能台数が増え、教職員の利便性が増した。令和4年度も児童の安全確保を最優先課題として、工事を実施する。

② 学校給食係 事業番号 6

総括事項

健やかな教育環境を整える中で学校給食の役割は重要であり、食材の地産地消を推進し、地元産の食材を使用したデザートを供給するなど、安全安心な、そして楽しさのある学校給食の安定的な提供に取り組んだ。

- 1 安全・安心な学校給食の提供 …… 事業番号 6
- 2 地産品を使ったふるさと食育の推進
- 3 給食施設の設備更新
- 4 給食費特別会計

施策の概要

1 安心・安全な学校給食の提供（古川国府給食センター）（決算額 112,784千円） 決算書 P247

一般会計では、古川国府給食センター負担金のほか、神岡給食センター、河合・宮川小学校給食に係る賄材料費以外の経費を経理している。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
	千円	千円	千円	
古川国府給食センター負担金	114,725 (114,725)	112,784 (112,784)	1,941 (1,941)	古川国府給食センター飛騨市実施分 ・古川中学校 給食日数 195日 延べ食数 78,048食 ・古川小学校 " 195日 " 85,541食 ・古川西小学校 " 195日 " 57,090食

（評価と課題及びその対応策）【令和4年度予算計上額：114,370千円】

食中毒等の大きな事故も無く、安心安全でおいしい給食を提供できた。アレルギー対応食の提供も行っており、安定した学校給食を提供するためには調理員の確保が重要である。会計年度任用職員制度の導入により調理員の待遇改善が行われているものの、将来的視点からも調理員不足は依然、深刻な問題となっている。

令和3年度から古川国府給食センターの学校給食調理業務が民間委託に移行したが、市営給食センターについても、人員不足の解消を念頭に調理業務の民間委託について引き続き検討を進めていく。

2 地産品を使ったふるさと食育の推進（決算額 9,965千円） 決算書 P246

ふるさと納税の活用による「地産品を使ったふるさと食育の推進」により、デザート等に地元産加工品や地域食材を積極的に取り入れた給食を提供し、食の楽しさと地産品に誇りを感じてもらおうとともに、学校に来る楽しみの一助になるよう学校給食の向上を図った。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
	千円	千円	千円	
地産品を使ったふるさと食育の推進事業	10,000 (0)	9,965 (0)	35 (0)	ありがとう給食（デザート提供） 延べ100回 5,237千円 ふるさと学校給食（地元食材提供） 延べ92回 4,728千円 食育授業8/27実施 宮川小学校全学年 飛騨牛と伝承作物の講話

（評価と課題及びその対応策）【令和4年度予算計上額：10,000千円】

おいしく喜ばれる給食の提供について関係機関等と連携し、引き続き栄養価のバランスをとりながら、学校給食の質の向上を進めていく。食育の観点からも地元産品についての食育授業も継続して行っていく。

3 給食施設の設備更新（決算額 8,020千円） 決算書 P246～247

食品の安全性の確保及び経年劣化による備品の更新のため、神岡給食センターの給食運搬車を更新した。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
給食施設の設備更新	千円 8,055 (8,055)	千円 8,020 (8,020)	千円 35 (35)	神岡給食センター給食運搬車購入 6,476千円

(評価と課題及びその対応策)【令和4年度予算計上額:2,938千円】

厨房機器等については、日々のメンテナンスとともに、早めの修繕や部品交換により衛生上や作業上の安全及び経費の節減に努めているが、高額な設備機器等については、償却年数やこれまでの履歴を元に更新していく。

4 給食費特別会計（決算額 33,418千円） 決算書 P371

給食費特別会計では、古川町以外の市内小中学校、市立保育園給食の一部に係る賄材料費を経理している。令和3年度も新型コロナウイルス感染症対策による学校行事の中止・変更に伴い、給食日数は当初計画よりも変動する結果となった。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
安全・安心な学校給食の提供	千円 34,900 (1,057)	千円 33,418 (1,192)	千円 1,482 (△135)	神岡給食センター ・神岡中学校給食日数 196日 延べ食数 30,947食 ・神岡小学校 " 201日 " 55,447食 ・旭保育園 " 196日 " 13,503食 河合給食センター ・河合小学校 " 196日 " 9,623食 ・宮川小学校 " 198日 " 2,957食 山之村給食調理場 ・山之村小中学校 " 198日 " 5,737食

(評価と課題及びその対応策)【令和4年度予算計上額:35,800千円】

メニューの工夫や調理方法の改善等により、アレルギー食への対応を含め、安全・安心な学校給食の提供を行っている。また、子どもたちに食への関心を持ってもらうため、引き続き栄養教諭等による食育授業を実施していく。

2 学校教育課

① 学務係・管理指導係

総括事項

飛騨市の学校教育の方針「志を語り合い しなやかに挑み続ける飛騨びと を育む」の具現に取り組んだ。飛騨市の教育を見据え、「子どもたちにどのような資質・能力を身に付けるのか」を明確にし、指導改善やICT機器を利活用した授業づくりを進め、コミュニティ・スクールの活動充実等、地域・家庭が協働して「未来の創り手」に必要な資質・能力を一層確実に育むことに取り組んだ。

- | | | |
|-----------------------------|----|---------|
| 1 飛騨市学園構想の推進 | …… | 事業番号 7 |
| 2 ICTを効果的に活用した授業づくり | …… | 事業番号 8 |
| 3 生きにくさ、学びにくさのある児童生徒への支援の強化 | …… | 事業番号 9 |
| 4 学校外での学習環境・体験活動の充実と指導力の向上 | …… | 事業番号 10 |

施策の概要

1 飛騨市学園構想の推進（決算額 3,376千円） 決算書 P223～224 事業番号 7

市内全ての保育園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校を一つの大きな「飛騨市学園」と見立て、①「飛騨市ビジョン」に基づき、資質能力ベースで、子どもの「課題解決能力」を育むカリキュラム作成と実施、②学校と家庭・地域が総がかりで、飛騨市の子どもたちの育成について目標を共有し、連携・協働するためのコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の導入と本格稼働、③各校種間交流等の実施の3本柱を掲げ、構想の実現を目指す。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
飛騨市学園構想の推進	千円 4,000 (0)	千円 3,376 (0)	千円 624 (0)	<ul style="list-style-type: none"> ・コアチーム会議10回開催（事務局会21回開催） ・学園構想学習会（2回） ・SNSを活用した啓発、説明活動 ・まなびみらい会議（12月）、実践成果報告会（2月）

（評価）

令和3年度は、学園構想の具現化に向けて、コアチーム会議を定期開催し、熟議を行い、着実な歩みを進めた。特に、上記3本柱の推進に向けて、「事務局部会」、「カリキュラム部会」、「地域学校協働部会」、「広報部会」を編成し、各部会から各学校や学校運営協議会（CS）・地域学校協働活動本部への支援や情報発信を行い、それぞれの活動充実に努めた。教職員や学校運営協議会委員、地域学校協働推進員を対象にし、スキルアップを目指した「学習会」を2回実施した。「まなびみらい会議」では、午前に講演会とシンポジウム、午後は4つの分科会で、参加者の学園構想への理解と参画意識を高めた。コロナ禍の中で校種間交流は、小中、小高「写真部と小学生の交流」や小中高「防災タウンウォッチング」等、イベント的には実施されたが、保育園、高等学校・特別支

援学校とは、コロナ感染症の状況から日常的な交流やカリキュラムを連携することはなかなかできなかった。

年度のまとめとして「オンライン成果報告会」を開催し、6事業（課題解決型活動）の実践が報告された。各学校、CS・地域学校協働本部における今年度の取組の成果と来年度への展望が明確となる報告であった。さらに「広報部会」も精力的に活動し、学園構想フェイスブックや広報ひだの連載、オンライントークの実施で、市内外に「飛騨市学園構想」の活動を発信することができた。

- メディア掲載実績：「ハウレンソウ 甘くておいしいですよ」山之村小中生ら特産物販売 10月14日 中日新聞
：古川西小1年生 牛の餌やり体験 鮎の瀬牧場 10月22日 中日新聞
：「学び合える地域大切」飛騨市で教育フォーラム 市学園構想見つめる 12月14日 岐阜新聞
：神岡中の来春1年生と保護者 適切なSNS使用 学ぶ 12月24日 岐阜新聞
：観光のこれから アフターコロナ@飛騨 未来の創り手を育成 ② 飛騨市 地域と協働「学園構想」 1月7日 中日新聞
：タウンウォッチング 防災活動大賞 飛騨で開催のイベント AEDや公衆電話を探索 2月3日 中日新聞
：飛騨市プロジェクトチーム 市長に表彰報告 防災教育実践で県大賞に喜び 2月3日 岐阜新聞
：宮川小児童、古里を活写 吉城高写真部員の指導で展示 2月4日 岐阜新聞
：高校生と小学生 写真でつながる 飛騨 吉城高写真部員と地元の宮川小 撮り方指導やコンテスト審査 2月13日 朝日新聞
：宮川小児童 写真コンテスト 工夫詰まった「冬の飛騨」 吉城高生が構図など指導 2月15日 中日新聞
：県ふるさと教育表彰 地元の魅力探究 古川小が最優秀 住民ら講師に問題解決力養う 3月10日 中日新聞
：地域と学び合い「ふるさと教育表彰」古川小、県最優秀に輝く 3月11日 岐阜新聞

（課題及びその対応策）【令和4年度予算計上額：5,591千円】

令和4年度は、学園構想第1章の最終年となり、3本柱のさらなる充実を図るとともに、第2章に向けて各事業の検証と改善に取り組む。「課題解決型カリキュラムの実施」では、身に付けた資質能力を他教科と往還する授業や諸活動の実施に取り組んでいく。「CS&地域学校協働活動の推進」では、CSポートフォリオの研修を活かし、各学校運営協議会の運営改善や地域と学校との協働活動がより活発化するよう、子どもたちが地域住民とともに企画・実施するプロジェクトに支援をする。「校種間交流の実施」では、特に、保育園、高等学校・特別支援学校との交流を促進する。コアチーム会議への関係者の参画による連携強化と防災タウンウォッチング等の交流事業を実施する。引き続き課題である「学園構想説明・啓発」は、ホームページ、フェイスブック、広報ひだ連載での情報発信を継続し、「学園構想オンライントーク」や「まなびみらい会議」「報告会」を開催し、地域住民の参画意識を醸成して活動促進を図る。こうした活動を、毎月開催する「コア会議」に、保育園・高等学校・特別支援学校の関係者が参画することによって、各事業の企画・実施をより円滑に進める。

2 ICTを効果的に活用した授業づくり（決算額 37,775千円） 決算書 P223～231

事業番号 8

飛騨市では、平成30年度より、児童生徒用タブレットPC、普通教室・特別教室の電子黒板、高速大容量のネットワーク環境、デジタル教材（教科書）の整備を進めている。さらに、令和3年度より、ICT支援員を配置し2週に1回のペースで学校訪問しこれからのICTを効果的に活用した授業づくりをすることにより、児童生徒が自らの問いや願いをもち、対話を通して学びを深める個別最適化の授業づくりを推進し、自ら学び未来を切り拓くことのできる人づくりを目指す。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
	千円	千円	千円	
I C Tを効果的に活用した授業づくり	38,170 (2,198)	37,775 (1,920)	395 (278)	◇児童用タブレットP C (106台) ・古川小 (60)、古川西小 (14)、河合小 (3)、宮川小 (1)、神岡小 (23) ・山之村小 (5) ◇電子黒板 (24台) ◇I C T支援員配置 (1名)

(評価)

令和3年度は、国の「G I G Aスクール構想」に基づき、児童生徒に一人1台のタブレット端末、電子黒板整備等、更なるI C T環境整備を進めた。これにより、タブレットP Cは、小2以上で1人1台(小1は2人に1台)。電子黒板は小3以上と理科室に整備ができた。各学校では、こうした整備を受けて、I C T機器を積極的に活用した授業づくりの実践を行い、直面する課題を主体的に解決するために必要な「課題解決能力」や「情報活用能力」等の育成を目指した。全校が高速大容量のネットワーク環境を活用し、コロナ対策で校内での教育活動をオンラインで実施すること、コロナによる臨時休校(自宅待機)や長期入院児童に対する、学校外で「学び・生活」をつなぐオンライン学習等を実施することができた。(オンラインを活用した遠隔学習等、コロナ待機児童生徒対応：古川小、古川西小、河合小、古川中、神岡中 不登校・不応児童生徒の家庭学習：神岡小 臨時休校対応：神岡中 等)

さらに、専任のI C T支援員を配置し、どの学校でもI C T機器を積極的に活用し、児童生徒の課題解決能力や情報活用能力を育む授業づくりの実践を進めることもできた。

メディア掲載実績：黙食をICTで楽しく 飛騨市教委、デジタル黒板を活用 古川西小 児童、近隣小の紹介映像視聴 12月2日 岐阜新聞

(課題及びその対応策)【令和4年度予算計上額：35,599千円】

令和4年度は、引き続きI C T環境の整備を進めるとともに、専門的な知見を有するI C T支援員を増員し、授業における効果的な活用を促すことで、課題解決能力や情報活用能力を備えた飛騨市ならではの人づくりに取り組む。I C T環境整備では、小学校2年生の普通教室に電子黒板・授業用P Cを整備する。小学校児童用のタブレット端末を増台し、児童生徒1人1台の使用環境を実現する。さらに、授業を担当する教員(教科担任、学級担任)へのタブレットP Cの貸与を進める。授業でのI C T機器の効果的な活用を進め、教員の研修会でも活用し個々のスキルアップを目指す。

3 生きにくさ、学びにくさのある児童生徒への支援の強化(決算額 7,771千円) 決算書 P223~231

事業番号 9

市内の小中学校には、生活への不安や学習への困り感から個別の支援が必要な児童生徒が数多く在籍し、こうしたことが不登校や社会不応につながってしまう状況もある。このため、子どもたち一人一人が将来の自己実現に向けて歩みだせるよう、①学校内外を問わずどこでも学習の機会を保障する学習支援員の配置、②学校カウンセリングの専門家による児童生徒支援訪問、③生活面・学習面における一貫性のある教育支援を行うための保育園と小中学校の連携強化、を三本柱と位置づけ、一人一人の個性を大切に、温かく支える学校づくりに取り組む。

事業名	現計予算額 千円	決算額 千円	不用額 千円	事業の概要
生きにくさ、学びにくさのある児童生徒への支援の強化	10,963 (10,455)	7,771 (6,876)	3,192 (3,579)	<ul style="list-style-type: none"> ・スタディーサポーター ・児童生徒支援訪問 ・保小中連携教育推進委員会の実施 ・小学校新1年生保護者向けリーフレットの配布

(評価)

令和3年度は、①. スタディーサポーター(学習指導員)を古川中校区3名、神岡中校区1名配置し、不登校児童生徒への学校外(グリーンルーム、こころのクリニック等)における学習支援、学校の相談室に通う不登校・不適応傾向にある児童生徒への学習支援、通常学級に通う児童生徒で学力不振にある児童生徒への学習支援を実施した。②. 児童生徒支援訪問では、橋本元教授(学校心理士)が各学校・園の児童生徒支援訪問を実施し、子どもたちの困り感への対応や教員の指導法を指導・助言した。さらに、児童生徒支援員および学校職員研修も実施し、教職員のスキルアップにつなげた。③. 保小中連携の推進(生活面・学習面における一貫性ある教育支援)では、就学前の「アプローチカリキュラム」、就学後の「スタートカリキュラム」の実施と小学校新1年生保護者向けリーフレットを配付した。合同研修会では、今年度も橋本治元教授(学校心理士)の講話から、保小中の連携が児童生徒一人一人を大切にし、一人一人のよさを伸ばす教育の推進に大きくかかわっていることを学び、これを活かして教育現場においてきめ細かな対応が行われた。

メディア掲載実績：中学生活 先輩が語る 古川中学生 宮川小児童に 8月18日 中日新聞

(課題及びその対応策)【令和4年度予算計上額：9,881千円】

令和4年度は、小中連携の推進として実施した各小中学校への橋本元教授の巡回に主幹教諭が同行して授業参観や情報交流の実施を継続することや、小学校から中学校への円滑な接続のために、小中学校の交流をより充実するために、既存の定例会や研修会を活かして情報交換を定期的に行う。また、推進委員会において飛騨市としての小中連携の取組方針や配慮事項をまとめ、具体的な取り組みを進める。

4 学校外での学習環境・体験活動の充実と指導力の向上(決算額 3,437千円) 決算書 P223~224

事業番号 10

社会環境の高度情報化やグローバル化が進む中、未来の創り手となる児童生徒には情報活用能力やグローバル化に対応する力(外国語によるコミュニケーション能力、日本の伝統や文化に対する深い理解)の育成が重要視されており、同時にそれらをかなえるための教職員の指導力向上が求められている。こうした課題に対応するため、児童生徒の体験活動や教職員向けのICT教育研修の充実を図るとともに、学校外での教育相談環境の整備を行う。

事業名	現計予算額 千円	決算額 千円	不用額 千円	事業の概要
学校外での学習環境・体験活動の充実と指導力の向上	3,494 (3,494)	3,437 (3,437)	57 (57)	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーンルームの環境整備 ・児童生徒の体験活動の充実 ・教職員研修の充実

(評価)

教育相談室(グリーンルーム)の環境整備では、エアコンを設置した。この環境整備によって学習活動等の諸活動が充実した。児童生徒の体験活動の充実

では、郷土の自然等の素晴らしさを知り、郷土愛を培う体験活動を実施した。コロナ禍であったが、小学校5～6年生20名が参加し、元理科教員をはじめとして講師4名の指導により、子どもたちの心に残る体験活動が実施できた。グローバル化に対応する力（外国語によるコミュニケーション能力）の育成のための体験活動は、ALTの来日が遅れ、講師などの人員不足のために実施できなかった。

教職員研修については、小学校で「プログラミング教育」の充実と中学校ではタブレット端末を活用した「授業づくり」を目指し、松井徹氏（岐阜女子大学准教授：県ICT活用アドバイザー、アップル社ADE）を講師として招聘し、各校ICT活用推進員を対象にした研修会（年2回）、児童生徒を対象にした授業（各校年2回）、教職員を対象にした研修（授業と同日開催）を実施した。児童生徒のスキルアップは目覚ましく、教職員も積極的にICT機器を積極的に活用した授業づくりを進めた。年度末には、松井准教授の監修による「ひだのICT（成果集）」を作成し、今後のICT機器を効果的に活用した授業づくりに寄与するものとする。

メディア掲載実績：鈴木教諭（神岡小）渡辺教諭（古川中）が優秀賞 飛騨市で教育実践研究論文の表彰 3月5日 岐阜新聞

：鈴木教諭ら優秀賞 飛騨市内の教職員 実践論文の表彰式 3月5日 中日新聞

：鈴木教諭（神岡小）が優秀賞 教育実践論文 難聴児の語彙テーマ 3月16日 中日新聞

（課題及びその対応策）【令和4年度予算計上額：8,920千円】

令和4年度は、神岡グリーンルーム（仮称）の設置に向けて準備を進める。開設場所は決定しているため、課題は「ひと」と「プログラム内容」である。児童生徒、保護者のニーズを把握し、現状の「ひと もの こと」の組み合わせを工夫して進めていく。児童生徒の体験活動については、コロナ禍で、体験活動不足の現状があり、児童生徒（保護者）のニーズも高いことから、「自然体験」と「英語コミュニケーション体験」の内容を工夫し、地域・学校のマンパワーを活かして継続開催していく。教職員の指導力向上では、引き続き、各校ICT活用推進員を対象にした研修会（年2回）、児童生徒を対象にした授業（各校年2回）、教職員を対象にした研修（授業と同日開催）を実施する。特に、教員へのタブレットPCの貸与が進み、市や各校での研修会によって個々のスキルアップが予想される。こうした状況は、教員のICT機器を効果的に活用した授業づくりへとつながる。市教委の学校訪問や市指定公表会において、ICT機器活用（授業づくり）の現状把握と各学校の児童生徒や教員のニーズに応えた研修会（講習会）を企画・実施していく。

3 生涯学習課

① 生涯学習係・教育振興係

総括事項

社会教育法を基本とし、乳幼児から高齢者まで幅広い市民層に向けて、社会教育委員、各種推進員及び指導員と連携を図り、生涯学習の普及啓発に努めた。

新型コロナウイルスの影響で、公民館施設利用関係では第4波（4/26～6/20）は20：00まで、第5波（8/27～9/30）は全館閉館、第6波（1/21～3/6）は20：00までとなった。これにより生涯学習の基本となる学びの機会の場が減少し、生涯学習活動に大きく影響した。

具体的には市民カレッジのメインとなるさかなクンの講演会は、令和4年度に延期を余儀なくされるなど計画しても実施できない講座も多数発生した。

なお、令和2年度に開催できなかった少年の主張大会（6/12）は第4波の最中ではあったが、来場者を制限し実施した。成人式は、ワクチン検査パッケージを来場者全員に周知し、ワクチン未接種の方は前日に抗原定性検査を行っていただき、来場者全員の感染防止対策を行い実施した。

- | | | | |
|---|-------------|----|---------|
| 1 | 社会教育推進事業 | …… | 事業番号 11 |
| 2 | 青少年育成推進事業 | …… | 事業番号 12 |
| 3 | 家庭教育学級等開催事業 | …… | 事業番号 13 |
| 4 | 地域学校協働活動事業 | …… | 事業番号 14 |
| 5 | 公民館講座等開催事業 | …… | 事業番号 15 |
| 6 | 公民館管理運営事業 | …… | 事業番号 16 |

施策の概要

1 社会教育推進事業（決算額 611千円） 決算書 P232～233 事業番号 11

社会教育委員は、社会教育に関する計画の立案や調査研究を行い、社会教育に関して教育委員会に助言する役割を担うことから、新型コロナウイルス感染症の影響でできなかった研修会をリモート方式に切り替え開催することで委員の資質向上を図るとともに地域社会教育の推進リーダー役として活動したが、顔を合わせて話し合いしながら進める会議は開催ができないなど、活動が制約された中での活動となった。

事業名	現計予算額 千円	決算額 千円	不用額 千円	事業の概要
社会教育推進事業	1,456 (1,456)	611 (611)	845 (845)	委員の会及び運営審議会：1回 飛驒地区及び県社会教育委員連絡協議会等：3回

(評価)【令和4年度予算計上額：1,324千円】

社会教育委員と社会教育支援団体から構成されるネットワーク「生涯学習推進会議」は、4つの部会（子育て支援、青少年育成、文化振興、スポーツ振興）で構成し、部会毎に今後の活動上での課題等について話し合いの機会を設け、令和4年度へ向けて活動の方向性を確認した。

(課題及びその対応策)

コロナ禍でできる具体的な意識改革や行動変容が不十分であり、会議の開催自体もできなかったため、オンラインなどを利用して、関係団体と連携・協働を図る。

2 青少年育成推進事業（決算額 2,074千円） 決算書 P232～233 事業番号 12

4町から青少年育成推進員の推薦を求め、それぞれの町の地域特性を汲み取りながら青少年育成活動を展開した。青少年に関連する様々な課題に地域ぐるみで取り組むことにより、青少年を取り巻く環境の改善や地域住民の健全育成への気運を醸成した。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
成人式開催事業	千円 1,174 (1,174)	千円 1,043 (1,043)	千円 131 (131)	令和4年1月3日開催（対象者260名） 飛騨市文化交流センター 新成人出席者：169名 神岡町公民館 新成人出席者：55名 計 224名
青少年健全育成推進事業	1,017 (1,017)	610 (610)	407 (407)	<ul style="list-style-type: none"> ・少年の主張大会の開催 中学生7名小学生8名（神岡町公民館） 飛騨地区予選を経て県大会に1名出場 ・青少年育成推進連絡協議会 古川部会：コロナ禍のため、オンラインによるふれあい集会を実施し、また次年度へ繋がる活動として啓発リーフレットを配布しPRに努めた。 河合・宮川部会：コロナにより各種イベントが中止となり、啓発活動が出来なくなったことから、チラシを全戸配布することで青少年育成運動の啓発を図った。 神岡部会：登校する児童に向け、学校玄関前にてあいさつ運動を実施した。啓発活動はイベントが中止になったため中止とした。
子ども会育成連絡協議会補助金	650 (650)	421 (421)	229 (229)	子ども会充実と活性化のため、育成連絡協議会を通じ、各単位子ども会の団体運営及び個別の事業活動の経費の一部を補助した。 単位子ども会数 52団体、子ども会員数 1,295人

(評価と課題及びその対応策)【令和4年度予算計上額：成人式 1,188千円、青少年健全育成1,051千円、子ども会育成650千円】

・コロナ禍ではあったが、新型コロナウイルス感染防止対策の協力要請を行い、事業の実施に努めた。成人式関係では民法の改正により令和4年4月から成人年齢

が18歳に引き下がるため、対象者に成人式のアンケート調査を実施したところ、現行どおりの開催希望が8割を占めていたため、名称変更のうえ現行どおり20歳を対象に実施する。(令和3年6月広報、ホームページにて周知)

メディア掲載 6月2日 岐阜新聞 飛騨市の成人式は民法改正後も20歳で開催

1月3日 NHK(東海) 感染対策を実施しての成人式の実施

1月4日 中日新聞、1月5日 岐阜新聞 いずれも成人式

・子ども会については、地域に住む子どもたちの集団活動の基礎であり、自主性や仲間との連帯感を育む貴重な場であるため、様々なサポート案を提案するなど子ども会と共に継続して実施していく。

メディア掲載 11月3日 岐阜新聞 子ども会連合会主催 親子ほのぼの体験フェスタ開催「親子、遊びや工作楽しむ」

3 家庭教育学級等開催事業(決算額 400千円) 決算書 P234 事業番号 13

家庭教育学級は保護者に対して家庭教育に関する学習機会を継続的に提供する事業であり、実施にあたっては各学校のPTAを主体とした。年間を通じ、今後の子育てに活かしてもらうことを目的として、集団で学ぶ学習形式にて親同士の交流を深めながら子育てについて学んだ。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
家庭教育学級(小中学校)開設事業	千円 400 (400)	千円 400 (400)	千円 0 (0)	家庭教育学級(小中学生と保護者対象:各小中学校PTA行事で実施) ・実施回数:53回 延べ参加者数:2,146名

(評価)

子育ての悩みを持った親同士が相互交流を通じて子どもの心身の発達上の課題などを学び、親の役割や家庭の在り方を再認識するなど親の自発的な学習を促すきっかけとなった。

(課題及びその対応策)【令和4年度予算計上額:家庭教育学級事業 400千円】

家庭教育に関する課題は、学校規模や地域の環境によって相違があり、各々の課題解決に繋がる内容となるよう各小中学校のPTAに委託している。今後より効果的な事業となるようPTAとの連携を深め事業の継続化に努めたい。

4 地域学校協働活動事業(決算額 407千円) 決算書 P233~234 事業番号 14

幅広い地域住民の参画を得て地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指し、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して様々な課題に取り組んだ。具体例として、古川西小では見守り隊のベストを更新するにあたり、児童からデザインを募集し、最優秀賞を図案として採用するなど地域と学校が連携することにより共に課題解決することができた。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
地域学校協働活動事業	千円 664 (385)	千円 407 (309)	千円 135 (△46)	地域学校協働活動推進員：24名 研修会：県主催6回、市主催2回

(評価)

市内の学校区に7つの地域学校協働活動本部を設置するとともに、各本部に3～5人の推進員を配置し、学校運営協議会と連携する形で活動を展開した。2月末には活動成果の発表の場として、地域住民が一体となって取り組んだ事例発表を行い、関係者で情報共有するとともに、今後の活動に向け推進員としての資質向上を図った。

(課題及びその対応策)【令和4年度予算計上額：711千円】

地域学校協働活動事業は令和2年度からの事業であり地域における認知度が低いいため、積極的な広報活動を行うことにより市内の認知度を高めることが課題と考える。この活動に理解・協力を得られる地域住民を増やし、地域の教育力によって子どもたちの成長を支える仕組みとなる基盤の構築が必要である。また各本部の活動が地域に寄り添いスムーズに行うことができるようサポートする必要がある。

5 公民館講座等開催事業（決算額 6,167千円） 決算書 P233～234

事業番号 15

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
公民館講座等開設事業	千円 2,366 (1,793)	千円 1,712 (1,541)	千円 654 (252)	公民館講座 16講座:受講者386名 (R4へ延期8講座) 自主講座 39講座:受講者443名 ・古墳めぐり、歴史めぐり、門松・花餅づくり、豆腐づくりなどの体験講座を開催。なお人気が高い講座は、可能な限り追加で実施した。
市民カレッジ	6,210 (6,090)	4,297 (4,222)	1,913 (1,868)	R3年度に市民カレッジを本格開校し7講座実施。(R4へ延期2講座) 「学びに卒業はない」を合い言葉に「宇宙」「防災」「食文化」など様々なジャンルの講座を開催した。 ・年間フリーパスポート購入者17名 (2000円/年)。1講座500円。 ・7講座：受講者延べ250名
高齢者学級開催事業	千円 200 (200)	千円 158 (158)	千円 42 (42)	古川町寿大学(囲碁、ダンス等4団体のサークル活動)、登録者数82名 ※各教室毎月数回定期開催 神岡町高齢者学級 3講座延べ105名 (R4へ延期1講座) 対象60歳以上

(評 価)

「公民館講座」は4町公民館において、時代の趨勢により薄れつつある昔からの飛驒の風習や文化をテーマとし、ふるさと「飛驒」を再認識する内容の講座を実施した。一方で「誰でも自主講座」は、教える人と学ぶ人が一体となって自主的に作り上げていく講座となっている。趣味や生活に関する内容を中心に幅広いコンテンツで構成されており、サークル活動への展開へと繋がるよう企画している。

しかしながら中止した講座は「食」を中心に8講座。特に2～3月に食のまちづくり推進課と連携した親子体験型の地域食材（あぶらえ等）を利用した郷土食作り3講座は、新型コロナ感染拡大防止のため、中止せざるを得なかった。

令和3年度に本開校した市民カレッジは、市内在住の講師や国内で活躍している多様な講師を飛驒市に招聘し、対面型での有料講座を開催した。（オンライン講座は1講座）今後も魅力有る講座を企画していく。

- メディア掲載 6月 9日 中日新聞 公民館講座 岩佐勝美講師と歩くシリーズ 「新緑の木々 眺めを満喫」
 8月18日 岐阜新聞 公民館講座 カニの標本作り 「サワガニ 本物らしく剥製に 生態学を学び創作に親しむ」(小学生対象)
 8月20日 岐阜新聞 公民館講座 箸と箸置き作り 「飛驒の広葉樹を使い箸作り 子供が地域の樹木に触れる」(小学生対象)
 10月27日 岐阜新聞 公民館講座 飛驒の巨大古墳めぐり 「巨大古墳めぐり、古代ロマン」
 12月10日 岐阜新聞 公民館講座 土偶講演会 「食用植物の精霊」 人類学者 竹倉史人「土偶を語る」 著者

(課題及びその対応策)【令和4年度予算計上額：公民館講座運営事業12,957千円】

受講者アンケートから、今後も様々なことを学びたいという意見が寄せられていることから、令和4年度に統一した冊子を年2回発行し、市民カレッジ、公民館講座及び誰でも自主講座との連携・補完を図り、魅力的で面白そうな講座を多数企画することで、生涯学習の普及浸透を図りたい。なお令和4年度は、神岡町の高齢者学級、コロナ禍のため河合町・宮川町で実施できなかった高齢者学級、及び新しく古川町の高齢者学級をリニューアルした「シニア学部」を創設しより身近な講座を提供していく。

6 公民館管理運営事業（決算額 90,901千円） 決算書 P236～238

事業番号 16

市有公民館は、地域住民の生涯学習を行う拠点施設となることから、適切な施設運営に努めるとともに、老朽化等による故障箇所の修繕を実施した。また、公民館講座等学びの機会の市民に広く提供することで、市民の生涯学習活動を支援した。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
公民館施設管理事業	千円 26,709 (21,371)	千円 24,429 (20,317)	千円 2,280 (1,054)	公民館4施設、分館3施設の運営・維持管理費 地域コミュニティ施設9施設（うち指定管理施設5施設）の維持管理費
公民館施設維持修繕事業	18,390 (15,790)	18,256 (15,656)	134 (134)	・古川町公民館自動火災報知器更新工事 7,480千円 ・千代の松原公民館自動火災報知器更新工事 2,127千円 ・神岡町公民館 備品購入（長机の更新）1,144千円

集 落 施 設 整 備 事 業	45,233 (13,733)	44,901 (13,401)	332 (332)	<ul style="list-style-type: none"> ・集落有施設整備事業補助（新築）24区宮城研修センター 16,570千円 ＋コミュニティ助成事業（宝くじ助成金）15,000千円 ・集落有施設トイレ等改修補助 16団体13,331千円（エアコン・LED照明等）
コロナに負けない元気な 地域活動の支援事業	3,500 (3,500)	3,315 (3,315)	185 (185)	<ul style="list-style-type: none"> ・地区有集会施設等の感染防止対策支援補助（二酸化炭素濃度計購入助成） 13団体 125千円 ・コロナと共に生きる地域活動支援補助（懇親会開催経費助成） 82団体 3,190千円

(評 価)

市有公民館は大きいものとして、自動火災報知器の更新を行い、安全対策を中心に順次修繕に努めた。

集落有集会施設については、新築に対し助成を行った。また令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の脅威により、これまで各地域で行われていたコミュニティ活動が停滞し、感染症の長期化が予測されたことから、集会施設に感染防止対策費用（二酸化炭素濃度計の整備）と地域コミュニティ活動（懇親会支援）を促す補助制度を継続することで、地域コミュニティ活動の維持化に繋げた。

(課題及びその対応策)【令和4年度予算計上額：43,160千円】

市有公民館は、築30年以上経過のため、不具合が出始めている。その修繕箇所については大規模工事に及ぶもので高額な費用を要することから、施設毎の要修繕箇所の把握と施設全体を網羅した年度修繕計画を策定し工事を実施していく必要がある。また、公民館は有事の際に避難所の機能を果たすことから、不特定多数の方の一時避難を考えバリアフリーの観点からトイレの洋式化が済んでいない箇所を順次更新していく。

集落有集会施設への補助制度については、令和4年度から新たに倉庫の新築・改築や解体に関するメニューを新設することで地域コミュニティ活動の拠点づくりを推進するとともに防災備蓄品の保管等機能の向上に努める。

4 文化振興課

① 文化係

総括事項

社会情勢の複雑化や成熟化を背景に、市民一人ひとりの価値観や生活スタイルが多様化する中、これまでの物質的な豊かさから感動や心のやすらぎを求める傾向に変化しつつある。市民が日常生活を送る上で豊かさやうるおい、または生き甲斐を実感してもらうためには、更なる芸術文化の普及浸透や生涯学習の実践が求められる中で、芸術文化に親しみ、様々な人と交流する場を提供し続けたことで豊かな感性を育んだ。

また、各種講座や美術館等で企画展示を開催し、故郷への誇りや愛着心の醸成に努めるとともに、コロナ禍にあつて、安易に催しを中止せず、オンライン等を使つての開催も取り入れながら、市内外への学びの場の提供、情報発信に努めた。

- | | | |
|-------------------------------|----|---------|
| 1 図書館機能の充実事業 | …… | 事業番号 17 |
| 2 飛騨市美術館企画展及び関連セミナー・ワークショップ事業 | …… | 事業番号 18 |
| 3 地域歴史資源活用事業 | …… | 事業番号 19 |
| 4 文化芸術振興事業 | …… | 事業番号 20 |
| 5 文化交流センター管理・運営事業 | …… | 事業番号 21 |
| 6 街なかポケットミュージアム開設・展示事業 | …… | 事業番号 22 |

施策の概要

1 図書館機能の充実事業（決算額 12,170千円） 決算書 P238～239 **事業番号 17**

市民の生涯学習の支援や多様化する知的好奇心に対応するため、古い蔵書を新しいものに更新した。8月27日から9月30日までは緊急事態宣言により臨時休館となったが、その間は予約制による貸出を行うことで休館中でも図書館の最低限の機能を維持した。

来館したことがない潜在的な利用者を掘り起こし、図書館利用率の向上につなげようと計画していたイベントや講座が、新型コロナウイルス感染症対策のため縮小となったが、10月以降は、定期開催していた読み聞かせイベントを再開したほか、ハロウィンの暗がりライブラリーや土偶女子のこんだあきこ氏を招いての歴史講座を実施する事ができ、幅広い年代の方が参加された。

一方、河合町、宮川町、山之村地区の図書館遠隔地に対しては、前年に引き続き定期的に図書の出張貸出しサービスとして「飛ぶ図書館」を実施し、遠方にお住まいの方にも図書館の蔵書を利用してもらうことができた。

館内展示では、「広葉樹のまちづくり」や「葉草プロジェクト」とコラボレーションした企画や、都竹市長の市政定期便「ほっとライブひだ」のテーマに関する書籍のコーナーを設け、書籍を通じて市の取り組みを知っていただく機会を創出した。

障がい者など一般利用が困難な方が安心して利用できる対応として、拡大読書器や活字読上げ装置を設置し、またこれまでの紙の図書に加えて新たに電子図

書の貸出サービスを開始し、遠方の方や移動が困難な方でも図書館を利用できるよう進めた。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
図書購入等事業	千円 7,692 (5,692)	千円 7,480 (5,480)	千円 212 (212)	利用者ニーズにマッチした選書や時代のトレンドの流れに沿った本の購入に努めるとともに古い蔵書を順次更新し、利用者にとって魅力のある本を提供する図書館を目指した。 ・蔵書購入数:4,400冊、「飛ぶ図書館」利用冊数：延べ911冊 ・利用者数：飛騨市図書館 22,202名（過去5年の平均：27,450名） ：神岡図書館 11,017名（過去5年の平均：11,427名）
電子図書館サービス導入事業	4,000 (200)	3,999 (199)	1 (1)	コロナ禍でも安心して図書館を利用できるように、これまでの紙の図書に加えて、電子図書貸出サービスを導入した。遠方居住者や移動が困難な方、図書館を利用されない方へのサービス拡充となった。 当初に約1,100冊の電子図書を導入した。（令和4年1月サービス開始） ・貸出実績：588件
図書館障がい者サービス事業	800 (0)	594 (0)	206 (0)	障がい等により図書館の一般利用が困難な方々が気兼ねなく安心して利用できるよう機器の導入と体制づくりに取り組んだ。 ・拡大読書器、活字読み上げ装置の導入 ・郵送貸出サービスの開始 利用実績：1件
来館促進イベント事業	150 (150)	96 (96)	54 (54)	年度前半のイベントは中止としたが、ハロウィンの「暗がりライブラリー」、講師を招いての「飛騨の歴史講座」などを開催した。また、規模を制限した中ではあったがおはなし会も継続して開催した。コロナ禍にあっていろいろなイベントが中止や規模縮小されるなかで、子供から年配の方まで幅広い年代の方に楽しんでいただくことができた。 ・イベント実施回数は14回、参加者は延べ995名となった。

(評価と課題及びその対応策)【令和4年度予算計上額：9,695千円】

図書館司書は令和3年度から正規職員1名増員したが、令和2年度に引き続き新型コロナウイルス感染症対策のため、予定していた新人司書の外部研修もオンラインでの実施となり、館内での日常業務をこなす中でのスキルアップに頼らざるを得ない状況である。令和4年度にはさらに正規職員が2名増員するため、コロナウイルスの感染状況も見ながら、積極的に職員研修を行い、しっかりとした体制で運営ができるよう取り組んでいきたい。

令和4年度は新聞データベースやデジタル化資料送信サービスの利用開始など、令和3年度に開始したサービスを利用者に活用してもらえよう、周知・利用促進に努めていきたい。

メディア掲載実績：飛騨市図書館「福袋」 12月29日中日新聞

飛騨市図書館「ひだ電子図書館」 1月7日中日新聞

飛騨市図書館「障がい者サービス」 2月2日中日新聞 2月10日岐阜新聞

飛騨市図書館 飛騨市観光協会連携企画「HIDA BOOK TRIP」 2月18日岐阜新聞・中日新聞

飛騨市図書館「雑誌総選挙」 2月20日中日新聞

飛騨市図書館「新聞データベース・国立国会図書館デジタル化資料送信サービス」 3月3日中日新聞

2 飛騨市美術館企画展及び関連セミナー・ワークショップ事業（決算額 3,237千円） 決算書 P239～241 事業番号 18

市美術館では、市民が芸術文化に興味・関心を持てるような企画展を開催するとともに、多様な文化芸術を創造するアートセンターを目指して、市民の文化芸術活動を支援するため、美術教室等の教育普及事業を実施した。

「飛騨市美術展」については、新型コロナウイルス感染症対策のため、審査のみ実施し展覧会は中止した。その代わりに作品紹介の動画を作成し、市公式YouTubeチャンネルに掲載した他、市内ケーブルテレビにて放送した。その他の展覧会については、感染対策を行ったうえで予定どおり開催した。

改修リニューアル工事については、令和4年度の工事を目指して令和3年度に実施設計を行い、空調の大規模改修に加え、玄関アプローチのバリアフリー化やトイレのユニバーサル化、研修室の内装全面改修による市民ギャラリーの新設など、美術を通して作品と人、人と人を結ぶ施設となることを目指す。令和4年度にその工事予算を計上した。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
美術館企画展等開催事業	4,296 (4,296)	3,237 (2,790)	1,059 (1,506)	飛騨を描き続けた、清冽の画家 沖野清展 会期：44日 入館者数：1,282名 山と生きるひだびと 会期：44日 入館者数：481名 光と影が織りなす日本画二人展 会期：26日 入館者数：598名 美しの紙展 会期：38日 入館者数：1,036名 MoMCAサテライトミュージアム 会期：32日 入館者数：1,571名 (同時期開催 飛騨市小中学校区工美術展 (飛騨市教育研究所)、美術教室発表展 会期：9日) 飛騨市美術展、飛越交流美術展の運営 WS関連：岐阜県美術館・岐阜県現代陶芸美術館の出張WS、日本画教室、マンガ教室、講演会など25事業を企画 (内6事業についてコロナ関連中止)。のべ参加人数345名。 市美術館運営委員会 2回開催 市美術館収集委員会 1回開催

(評価と課題及びその対応策)【令和4年度予算計上額：5,107千円】

「飛騨を描き続けた、清冽の画家 沖野清展」や「山と生きるひだびと」、「光と影が織りなす日本画二人展」は、令和2年に作成した基本構想に掲げた「飛騨の文化・芸術・作家を魅せる」というコンセプトの1つに沿う企画展として実施した。また、関連するトークイベントや講演会、日本画教室・トチもち作り・木に関するWSなど多彩な関連事業を実施し、視覚に加えて体験的な学びの機会を創出した。

「美しの紙展」は、民間の方が企画された展覧会に対して、美術館も協力する形で実施した。クラウドファンディングによる、予算での支出が難しい展示

品の購入等についての補助や、コロナ禍でも展覧会を楽しめる工夫として設置したQRコード、展覧会に関連した商品のミュージアムショップ等を実施した。また、市内中高生や、「ヒダスケ」に参加された地元住民に、展示準備について参加いただくなど、これまでの美術館では実施してこなかった新しい取り組みとなった。その結果、従来少数であった若年者・女性という層の利用者を増やすことができた。

次年度は、従来の館内でのセミナー・WSだけでなく、市内小中学校へ美術館が出向き美術鑑賞授業を行うなど、アウトリーチ事業にも取り組んでいきたい。

メディア掲載実績： 飛騨市美術館「飛騨の情景、丁寧な筆致 飛騨市神岡出身 故沖野さんの洋画展 市美術館」4月20日 岐阜新聞他
 飛騨市美術館「山と生きる知恵伝える 飛騨市美術館 テゾリや作業写真展示」7月6日 岐阜新聞他
 飛騨市美術館「入賞作品など153点をホームページで紹介 飛騨市美術館」10月26日 中日新聞他
 飛騨市美術館「飛騨市美術館 熊崎さんと岡部さん「二人展」 色彩、重厚感違う日本画」10月22日 中日新聞他
 飛騨市美術館「飛騨市美術館 CFで開催費用募る 民間×行政＝テーマ作品展 水うちわ、和傘など多彩に 来月4日か」11月8日 中日新聞他

3 地域歴史資源活用事業（決算額 14,835千円） 決算書 P235～241 事業番号 19

姉小路氏・江馬氏という二つの戦国武将の山城跡の整備活用を推進した。国史跡を目指す姉小路氏城館跡については、発掘調査報告書の執筆等まとめ作業を実施した。またそれぞれの専門委員会を開催し調査研究や保存・活用・整備の客観性を担保した。事業の内容については、歴史講座をはじめとして、SNS等での常時発信し、県内外の興味がある方々に飛騨のダイナミックな山城の魅力と重要な歴史遺産としての価値を伝えた。

飛騨みやがわ考古民俗館は、参加者にも発信者にもなる在り方を求めて「石棒クラブ」による活動を行った。国内では内閣府の地方創生ホームページに取り上げられ、また国際博物館会議ニュースレターでの掲載など、海外でも事業紹介されるに至った。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
江馬氏館跡整備活用事業	9,598 (0)	8,994 (0)	604 (0)	国名勝・江馬氏館跡庭園の更なる活用の発展のため、飛騨神岡街づくり実行委員会に利活用事業を継続して委託した。実際に「神岡フレンチ」や「飛騨の新そば」を学芸員の説明を受けながら食事する会などを開催し、課題や改善点を整理し、次年度以降の具体的な利活用の方向性を模索した。 今年度の歴史講座は、3月13日に、学芸員3名とまちづくり実行委員会2名による江馬氏城館跡調査成果報告会「天地を翔ける」と題して、半世紀に及ぶ江馬氏研究の報告や発表を行った。参加者には江馬氏に関する漫画と報告書が付いた資料集をプレゼントした（参加者：150名）。 他に、令和2年度に実施した傘松城跡の調査動画を作成した。夏季には、高原郷土館・江馬館の割引共通券を販売し、集客に努めた。

姉小路氏関連城館群 (山城跡) 整備活用事業	1,925 (0)	1,653 (0)	272 (0)	姉小路氏関連の5つの山城について、総合調査報告書の原稿執筆を行った。国指定に向けた土地所有者の調査・同意取得も行った。恒例の山城セミナーは、高山と古川の街並みを、山村亜希教授(京都大学大学院)と学芸員2名で解説するオンラインイベントを開催した。また、現地の説明板は向小島城跡に整備し、当時の様子を再現した復元イラストや発掘調査の様子を記録したPR動画を作成・公開する等、山城跡の普及啓発に努めた。 また、小島城跡において太江区と協議のうえ集落センター駐車場や城跡の道中各所に案内サイン等を設置した。
埋蔵文化財発掘調査等事業	5,140 (1,837)	4,045 (742)	1,095 (1,095)	東町城跡と古川町高野において、試掘確認調査を実施し、開発計画と調整を行った。また平成28年度に実施した上町遺跡の本発掘調査に関わる整理作業を実施した。
飛騨みやがわ考古民俗館 活用事業 (石棒クラブ)	145 (0)	143 (0)	2 (0)	収蔵資料の3Dデータの取得と公開を関係人口と共働で実施した。まず夏にトークイベントで地域資源をデータ化する意義を共有し、秋に一般参加で3D合宿を実施した。このような取り組みが先進的であるとされ、日本考古学協会での発表、奈良文化財研究所での論文執筆、国際博物館会議ニュースレターでの掲載等、国内外の博物館等が参考となるよう情報発信を行った。

(評価と課題及びその対応策) 【令和4年度予算計上額 17,663千円】

昨年に引き続いてイベント等の実施により、黒内区が自主的に小鷹利城跡への登山道を整備するなど、山城は飛騨市にとって重要な歴史遺産であると認識されつつあり、徐々にではあるが郷土への誇りや愛着心の醸成に繋がってきている。結果として、城跡の「御城印」も市内で販売される等、観光資源としても着目されつつある。必要なサイン整備等、観光課や地元の保存会等とも連携して、活用策について検討していきたい。

江馬氏館の活用については、庭園を眺めながらの食事会を数回行い、価値の共有につながる取り組みが実施された。令和4年度も活用事業を継続的に実施し、活用策が地域に浸透する方法を継続したい。

飛騨みやがわ考古民俗館での石棒クラブによる活用事業は、関係人口の増大に着目する市の政策に合致させている点が外部から評価され、各方面で話題となり、群馬県・千葉県・福島市等で発表の機会を得た。また、研究発表2回、書籍等への掲載3回という機会をいただき、みやがわ考古民俗館及び石棒クラブの取り組みを広くPRできた。

メディア掲載実績：飛騨みやがわ考古民俗館と石棒クラブ NHK5/18 11/21 12/12 朝日新聞4/11 中日新聞4/27 8/8 12/15 1/16・岐阜新聞6/3 8/12

11/11・上毛新聞6/30・高山市民時報8/6、高原郷土館と江馬氏館共通入館 中日新聞7/1、江馬氏館書籍出版 神岡ニュース8/19・岐阜新聞8/7・中日新聞8/12、江馬氏館跡で食事 中日新聞11/5、山城 岐阜新聞8/8、江馬氏館で小学生が土壁塗り体験 岐阜新聞10/8・中日新聞10/8

4 文化芸術振興事業 (決算額 12,411千円) 決算書 P234~241

事業番号 20

これまでの補助事業を、①交流センターで行う企画事業の委託 ②地域文化振興事業補助金 ③地域伝統芸能継承事業助成金 ④文化協会活動振興交付金

に整理し、市民に優れた芸術文化に触れる機会の創出や地域の伝統文化の継承の支援を行った。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
交流施設企画運営事業	千円 16,000 (16,000)	千円 9,673 (9,673)	千円 6,327 (6,327)	地域の賑わい創出と芸術文化活動の活性化を図るため、「ひだ文化村」一体での様々な世代の方々が文化芸術に興味をもつ事業をNPOひだ文化村に委託したが、令和3年度も新型コロナウイルス感染症のため、予定していた8事業のうち実施できたのは3事業となった。 延べ来場者 1,072名
地域文化振興事業補助金 交付事業	1,900 (1,900)	231 (231)	1,669 (1,669)	市内の芸術文化活動の振興や地域に伝わる伝統文化の継承活動を支援するため、団体が行う事業に要する経費の一部について補助金を交付した。 ・飛騨市文化協会（短歌・俳句コンクール等5事業） 231千円
地域伝統芸能継承事業助成金 交付事業	1,000 (1,000)	598 (598)	402 (402)	地域伝統芸能の保護や継承者育成を目的に成果発表を開催する団体に対して助成金を交付した。 河合町歌舞伎保存会は当初5月に地歌舞伎の公演を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染の影響により10月公演となった。 藤橋会は9月に江馬館にて能の公演を予定していたが、緊急事態宣言により中止となった。
文化協会活動振興交付金 交付事業	2,650 (2,650)	1,700 (1,700)	950 (950)	飛騨市文化協会の活動を支援するために交付金を交付した。
荒垣秀雄氏の功績顕彰事業 (作文コンクールの開催)	300 (300)	209 (209)	91 (91)	飛騨市出身で名誉市民である故荒垣秀雄氏が残した功績を後世に伝える目的で第4回「作文コンクール」を開催した。今年度のテーマは、「私の宝物」。応募数は91作品で去年より増加した（去年は49作品）。審査会で選ばれた上位作品を表彰するとともに、入賞作品を市のホームページとFacebookで披露した。

(評価と課題及びその対応策)【令和4年度予算計上額 18,795千円】

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策により、予定していた事業の多くが中止または延期となったが、その中でも感染症対策をしっかりと取ったうえで開催できるものは実施してもらい、コロナ禍にあっても、市民が芸術文化を気軽に楽しんでもらえる機会の提供に努めた。

荒垣秀雄顕彰作文コンクールは学校の協力もあり去年よりも応募作品数は増加した。新年度は、学校への呼びかけ時期を早め、高校の文芸部へも働きかけを行うなど、特に小中高生の応募数を増やすための工夫をしていきたい。

メディア掲載実績：飛騨かわい地歌舞伎公演 10月26日 中日新聞、10月27日 岐阜新聞

荒垣作文コンクール 8月7日 朝日新聞・8月14日 岐阜新聞・1月6日 中日新聞・1月7日 岐阜新聞

5 文化交流センター管理・運営事業（決算額 59,410千円） 決算書 P240～241

事業番号 21

地域活性化と人的交流の促進及び市民の芸術文化意識の向上を目指し、指定管理者と綿密に連携し適切な施設の運営管理に努めた。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
飛騨市文化交流センターの管理・運営	千円 60,036 (60,036)	千円 59,410 (59,410)	千円 626 (626)	新型コロナウイルス感染症対策により1カ月の臨時休館や開館時間の短縮などの制限があったが、入場制限など感染対策を行いながら貸館業務や魅力ある各種文化イベントを開催した。 主な設備の修繕として、換気扇の改修工事、防火シャッター修繕、舞台照明の修繕等を実施することで、安定した施設の運営が図られた。

（評価と課題及びその対応策）【令和3年度予算計上額 59,353千円】

文化交流センターは、NPO法人ひだ文化村が指定管理者として選定され、5年の指定期間の内の4年が終了した。コロナ禍にあって、予定した興行イベントの中には中止または延期せざるを得ないものがあつたが、感染症対策を十分に施したうえで、実施できるイベントは実施するとともに貸館利用サービスは継続し、市民が文化芸術活動を行う拠点としての運営を行った。

6 街なかポケットミュージアム開設・展示事業（決算額 1,259千円） 決算書 P234

事業番号 22

古川町の街なかにあるさくら物産館蔵ホールを、飛騨の歴史や民俗を伝え観光客にも楽しんでもらえる小さな博物館「街なかポケットミュージアム」としてオープンし、令和3年度は飛騨の糸引き工女研究資料の展示を行った。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
街なかポケットミュージアム開設（糸引き工女研究資料の展示）	千円 1,613 (0)	千円 1,259 (0)	千円 354 (0)	令和元年度に開催された飛騨市美術館企画展「愛しの糸引き工女展」をもとに糸引き工女の真の物語をより多くの方に知ってもらえる資料を紹介した。（来館者数：545名） また、工女たちも関連する養蚕と製糸産業にまつわる映画「シルク時空を超えて」の上映会を行った。（視聴者数：55名）

（評価と課題及びその対応策）【令和4年度予算計上額 1,310千円】

街なかポケットミュージアムはさくら物産館に寄られる観光客も訪れ多くの見学者があつた。展示内容の飛騨の糸引き工女研究資料については、令和元年度に市美術館企画展として開催した「愛しの糸引き工女展」の資料を使ったが、歴史を考証するドキュメント性の高い内容となっていることから来場者の感想も好評であつた。

令和4年度の秋には展示内容を変更する予定であり、既存の資料を活用して魅力ある展示ができるよう検討する。

メディア掲載実績： 糸引き工女調査報告書発行 岐阜7/21、中日7/27

ミュージアム開設 中日11/4、岐阜11/14

5 スポーツ振興課

① スポーツ振興係・教育振興係

総括事項

2年続いた新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、令和3年度においても当課所管のほとんどの事業及びイベント等が中止または延期に追い込まれたが、そんな中でも令和2年度で培った感染防止対策等を最大限活かし、市民の健康づくり、生きがいをづくりにつながる生涯スポーツ推進に取り組んだ。特に屋外の運動に重点を置いた事業を展開、ノルディックウォーキング事業や飛騨クアオルト健康ウォーキングについては、感染対策を十分に講じたうえで開催、更にスキー振興事業ではスキー場リフト無料化補助の範囲を高校生まで拡大させたほか、レッスン補助や小学生のスキー教室に於けるインストラクター派遣委託を新設するなど、多くの市民に参加、利用いただき運動不足解消に努めた。また、毎月調整会議が必要な一部のスポーツ施設において、市民の利便性の向上とコロナ禍による3密を防ぐ目的で公共施設予約管理システムを導入、利用者ニーズと感染対策に努めた。

一方、スポーツ環境の整備では、森林公園既存施設の解体工事を始め、釜崎社会体育館トイレ改修工事や桜ヶ丘体育館玄関ポーチ外壁修繕など、子どもから高齢者まで安心して利用できる施設の整備を行った。

なお、令和3年度に開催予定となっていた第33回全国健康福祉祭ぎふ大会「ねんりんピック岐阜2021」は新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴い、中止となった。

1	スポーツ推進事業	……	事業番号 23
2	体育施設管理運営事業	……	事業番号 24
3	飛騨市屋内運動場整備事業	……	事業番号 25
4	ねんりんピック岐阜2021大会開催事業	……	事業番号 26
5	公共施設予約管理システム導入事業	……	事業番号 27
6	スキー振興事業	……	事業番号 28

施策の概要

1 スポーツ推進事業（決算額 14,735千円） 決算書 P241～243 **事業番号 23**

スポーツの推進を図るため、飛騨市スポーツ推進委員を委嘱し、地域スポーツの活性化の中心となって活動してもらうことで全市的にスポーツを普及促進していく。また、各種スポーツ団体においても、指導者育成やスポーツ行事の支援を行い、スポーツによる地域の活性化を図る。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
スポーツ推進委員活動事業	千円 1,941 (1,941)	千円 748 (748)	千円 1,193 (1,193)	活動実績（スポーツ推進委員 総員30名） 飛騨地区前期スポーツ推進委員研修会（6月19日→中止） 飛騨市スポーツ推進委員研修会（10月3日 参加9名） 飛騨地区後期スポーツ推進委員研修会（11月6日 参加13名） 全国スポーツ推進委員研究協議会（11月18日、19日→中止） 東海四県スポーツ推進委員研究大会（2月18日、19日→中止）
スポーツ団体育成事業	10,369 (10,369)	6,056 (6,056)	4,313 (4,313)	補助団体 飛騨市スポーツ協会、飛騨市スポーツ少年団、飛騨市レクリエーション協会、カントリーウォーク運営委員会、飛騨シューレ、飛騨かわい剣友会
スポーツ行事推進事業	4,362 (1,482)	3,941 (1,081)	421 (401)	剣道錬成会及び飛騨かわい剣道アカデミー（中止） F C岐阜子どもサッカー教室（11月3日 参加 33名、11月23日 参加 29名） 飛騨市民登山（10月17日→中止） 飛騨市スポレク祭（10月17日 参加約1,500名） ふれあいソフトミニバレーボール大会（12月5日→中止） 飛騨市ふるかわ元旦マラソン（1月1日 参加約1,000名）
ウォーキング推進事業	5,147 (711)	3,990 (704)	1,153 (3)	ノルディックウォーキング公認指導員資格取得補助20千円/名 （11月20日 受講者 2名） 推進教室1回開催（10月18日 神岡のみ） クアオルト健康ウォーキング実践指導者養成講習（10月27日～28日、11月9日～10日、11月30日～12月2日 受講者 1名） 県内クアオルト推進首長ミーティング（10月11日 参加 17名） 飛騨神岡ツーデーウォーク（中止） 第3回飛騨市ノルディックウォーキングフェスタ2021（11月7日 参加 38名） 第14回北アルプス展望スノーシュー&テレマークスキーツアー（2月13日 中止）

（評価）

スポーツ推進委員活動事業については、令和2年度でノルディックウォーキングの普及期間5年が終了、令和3年度より新たな軽スポーツ「モルック」の普及に重点を置き、飛騨地区研修会や今年度新規事業の飛騨市スポレク祭等で普及活動を行った。ノルディックウォーキング事業では、市の助成制度を活用して新たに2名の方が指導員資格を取得されたことにより、推進教室の充実が図られた。また、第3回飛騨市ノルディックウォーキングフェスタ2021を市民限定で開催、コロナ禍であっても感染防止を徹底した上で市民との交流を図ることができた。

クアオルト健康ウォーキング事業では、定例ウォーキングが対前年比で約1.3倍の伸びとなった。また、兼ねてより計画を進めていた岐阜市、関市を含

む3市連携事業として、県内クアオルト推進首長ミーティングが岐阜市に於いて開催され、より一層の結束が図られた。更に令和3年度はクアオルト健康ウォーキング実践指導者養成講習に1名が受講し見事認定されたため、今後の利用者の普及、促進に期待がかかる。

北京2022パラリンピック冬季競技大会クロスカントリー競技日本代表飛騨市出身岩本啓吾選手の出場を祝い応援メッセージ動画を作成するなど、コロナ禍においてもスポーツの機運醸成を図ることができた。

(課題及びその対応策)【令和4年度予算計上額：36,783千円】

各団体とも、未だ終息の見えないコロナ禍でどのような対策を講じながらスポーツの推進を図っていくかが課題となっている今、主に屋外での事業やイベントに重点を置きながら年齢・性別を問わず、気軽に楽しめるウォーキング事業を充実させていく。中でも飛騨市の魅力を伝える取り組みとして、第4回飛騨市ノルディックウォーキングフェスタ2022の継続開催、クアオルト健康ウォーキングの独自コースの設定、並行してヘルスツーリズムの確立や指導員資格養成講習の充実を図りながら、健康をキーワードとしたウォーキングへの取り組みをより一層、市内外に広く浸透させていく。併せて、子どもたちが気軽にスポーツに親しめる機会を創出する取り組みとして、令和2年度より神岡地区で実施している「インクルーシヴ・スポーツ学童」を令和4年度から古川地区でも実証実験を開始、また、子どもから高齢者までが楽しめる「飛騨市スポレク祭」を4町持ち回りで継続開催を行っていく。

メディア掲載実績： 「親子で軽スポーツ」飛騨市スポレク祭 10月19日 中日新聞他

2 体育施設管理運営事業 (決算額 78,461千円) 決算書 P242~245 **事業番号 24**

市民が真摯にスポーツに勤しめるよう、体育施設を適正に管理運営し、必要なニーズに応じて改修等を行うことで安心安全な体育施設を維持管理していく。

事業名	現計予算額 千円	決算額 千円	不用額 千円	事業の概要
体育施設管理事業	59,278 (55,136)	57,799 (54,802)	1,479 (334)	体育館等 18 施設 (うち指定管理5施設) の維持管理 グラウンド 18 施設 (うち指定管理3施設) の維持管理 スキー場 1 施設 (うち指定管理1施設) の維持管理
社会体育施設の維持改修	21,015 (15,115)	20,662 (14,762)	353 (353)	古川トレーニングセンター改修設計業務委託 (繰越) 4,840千円 釜崎社会体育館トイレ改修工事 6,810千円 桜ヶ丘体育館玄関ポーチ外壁修繕工事 2,629千円 桜ヶ丘体育館汚水ポンプ取替修繕工事 1,298千円 その他 5,085千円

(評価)

飛騨市スポーツ施設整備計画に基づき、釜崎社会体育館トイレ改修工事をはじめ、桜ヶ丘体育館玄関ポーチ外壁修繕工事を実施。また、施設備品については、森林公園の作業用軽トラックを更新し、作業効率の向上を図ったほか、継続した取り組みとして各施設の電気料や水道料の見直しを行い、経費の節約に努めた。

(課題及びその対応策)【令和4年度予算計上額：84,744千円】

未だ終息の見えないコロナ禍において、市民の健康づくりや生きがいづくりに繋がる取り組みは、今や安心・安全・3密に配慮した上でのスポーツ振興及び施設管理が常識化されつつあり、新たなフェーズへと入ってきた。一方、オリンピック効果で若者のスポーツニーズは多様化してきている反面、体育施設は老朽化対策の遅れが課題となっていることから、令和4年度に於いてもスポーツ施設整備計画に基づき、順次、施設の改修工事やトイレ洋式化工事を進める。

3 飛騨市屋内運動場整備事業 (決算額 52,762千円) 決算書 P243~244 事業番号 25

飛騨市スポーツ施設整備計画に基づき、市民等からの要望が多い屋内運動場の新設について検討するため、関係団体等からなる飛騨市屋内運動場整備検討委員会を開催し、令和3年度の事業報告を行ったほか、施設規模、構造、付帯施設及び事業費等について、助言及び提案を頂いた。

事業名	現計予算額	決算額	決算未済額	事業の概要
飛騨市屋内運動場整備事業	千円 64,639 (2,839)	千円 52,762 (2,662)	千円 繰越額 11,715 (15) 不用額 162 (162)	委員会の開催状況 ・飛騨市屋内運動場整備検討委員会 (委員8名) ・委員会1回開催 (3月7日) 森林公園既存施設棟解体工事 50,166千円 森林公園キャンプ場他電源切替工事 1,155千円 森林公園テニスコート他電源切替工事 1,265千円 その他 176千円

(評価)

令和3年度に行った森林公園既存施設(管理棟・宿泊棟・テニスコート)の解体工事は計画どおり実施できたが、同時期に行っていた屋内運動場新築工事設計業務については、解体時の埋設物撤去に時間を要したため、降雪前に設計業務の地質調査に着手することができず翌年度へ繰越となった。

飛騨市屋内運動場整備検討委員会は1回開催し、解体の状況報告及び事業費に見合った施設の規模について再度検討を行っていただき、今後の建設に向けての意見を伺った。

(課題及びその対応策)【令和4年度予算計上額：75千円】

日々、建設事業費が高騰している中、いかに限られた事業費で各種団体の要望に沿った建物を作る事ができるかが課題となる。また、屋内運動場の屋根の構造や床の材質については、除雪対策や今後の維持管理などを十分考慮したうえで、当初の予算規模との調整を図りながら引き続き各種団体との間で十分な検討を重ねていく必要があるが、未だに終息が見えないコロナ禍において、特に冬期間における高齢者の体力低下と閉じこもりの防止、健康寿命の延伸、更にはスポーツ少年団や部活動の冬期練習の場としても早期に提供することを重視しながら、子どもから高齢者の方までが共に親しんで利用できる施設としたい。

4 **ねんりんピック岐阜2021大会開催事業（決算額 230千円） 決算書 P242** 事業番号 26

令和3年度に岐阜県において開催される予定であった第33回全国健康福祉祭ぎふ大会「ねんりんピック岐阜2021」は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、参加者の十分な安全を確保することが困難であると主催3者（厚生労働省・岐阜県・一般財団法人長寿社会開発センター）で判断され、岐阜県大会が中止となった。

事業名	現計予算額 千円	決算額 千円	不用額 千円	事業の概要
ねんりんピック岐阜2021 大会開催事業	231 (231)	230 (229)	1 (2)	委員会の開催状況 ・飛騨市実行委員会第3回総会（6月30日 書面表決） ・開催中止の正式決定（9月2日） ・飛騨市実行委員会第4回総会（10月27日 書面表決） ・飛騨市実行委員会解散通知（11月9日）

(評価)

今回の「ねんりんピック岐阜2021」の中止に際し、飛騨市においては当初の計画どおり、当市で開催予定であったサッカー競技大会の成功に向けて、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮しつつ、競技団体等と協力しながら本大会の開催準備に努めてきた。

(課題及びその対応策)【令和4年度予算計上額：0千円】

岐阜県では令和3年度に中止となった第33回全国健康福祉祭ぎふ大会「ねんりんピック岐阜2021」について、岐阜県での再誘致に向けて検討を進められ、令和4年1月18日正式に第37回全国健康福祉祭ぎふ大会（ねんりんピック）の令和7年度開催が決定された。なお、交流大会、ふれあいレク大会の開催種目、会場地については、今後、調整がなされる予定である。

5 **公共施設予約管理システム導入事業（決算額 3,025千円） 決算書 P244** 事業番号 27

利用希望が集中するスポーツ施設などを対象として、毎月開催される調整会議や利用者間の平等性を確保することと、昨今の新型コロナウイルス感染拡大に伴い、利用者が一堂に集まる機会の削減を目的とし、公共施設予約管理システムの導入を行った。

事業名	現計予算額 千円	決算額 千円	不用額 千円	事業の概要
公共施設予約管理 システム導入事業	3,478 (678)	3,025 (225)	453 (453)	説明会等の開催状況 ・施設管理者説明会（2月3日） ・施設利用者説明会兼調整会（2月25日） ・施設利用者操作研修会（3月10日） 施設予約管理システム導入委託 3,025千円

(評 価)

インターネット申請の導入を求める利用者ニーズに応え、パソコンやスマートフォンから直接入力でき、繁忙期における予約集中や重複時の自動抽選、帳票管理、多様な決済手段など、十分な機能を備えた予約管理システムを導入、利用者の利便性及び平等性を図ったほか、コロナ禍における安心・安全・3密の回避に努めた。

(課題及びその対応策)【令和4年度予算計上額：1,260千円】

令和4年度より運用開始となる予約管理システムに於いて、モデル施設でのシステム導入効果を十分に検証したうえで、更に利用者にとって使いやすいシステムの構築と他の公共施設への適用拡大を積極的に行う。

6 スキー振興事業 (決算額 13,790千円) 決算書 P243 事業番号 28

市内の子どもたちが雪国ならではのスポーツであるスキーにより親しめるよう、従来行ってきたリフト券の購入補助に代えて、令和2年度に新型コロナ需要喚起対策「Go to Skiキャンペーン事業」として、小中学生を対象に行ったスキー場リフト無料化の実証実験を実施、その検証結果から令和3年度は更に事業の拡大を行い、市民の誰もが親しみをもちてスキーが楽しめることをふるさとの自慢と感じてもらえる取り組みを行った。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
スキー振興事業	千円 14,800 (1,000)	千円 13,790 (926)	千円 1,010 (74)	小学校スキー教室講師派遣委託料 364千円 小中学校野外活動振興補助金 13,426千円 ・リフト無料化補助 12,984千円 ・スキーレッスン補助 442千円

(評 価)

令和2年度に引き続き、市内小中学生を対象に実施した市内スキー場におけるリフト券の無料化について、令和3年度は対象を市内在住の高校生及び市内高校に通学している高校生まで範囲を拡大、更に令和2年度に市内小学生の保護者及び中学生を対象に実施したアンケートの調査結果による利用者ニーズに応えた支援策として、幼児から中学生までのスキーレッスン補助並びに小学校スキー教室へのインストラクター派遣委託を追加、市内の子どもたちが雪国ならではのスポーツであるスキーにより親しんで頂けたほか、当事業を行った事による市内小中高生のスキー場利用者数がコロナ禍以前よりも増え、一定の集客にも繋がった。

(課題及びその対応策)【令和4年度予算計上額：0千円】

令和2年度及び令和3年度の実証実験により、本事業を実施したことによる市内小中高生及びその保護者の利用が増加した。一方で2年間行ったアンケート調査結果により、実証実験の条件となった在学証明書とリフト券の交換方法を簡単にして欲しい等の意見が多かったことから、今後、市内スキー場と調整を図りながらリフト券交換の簡略化に向けて取り組む。